

【一】<sup>0</sup>一<sup>1</sup>丁<sup>2</sup>下<sup>2</sup>三<sup>2</sup>上

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
一	イチ イツ ひと ひとつ	一 一 一	一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一 一 一	一
教1常①		甲骨 毛公鼎 郭店楚簡	説文篆文	馬王堆 乙瑛碑 十七帖		蘭亭序	高貞碑 九成宮	五経・序	那須國造碑
			一	一					
			一	一					
			一	一					
七	シチ なな ななつ なの	十 十 十	七	七 七 七	七 七 七	七 七 七	七 七 七	七 七 七	七
教1常①		甲骨 金文 睡虎地秦簡	説文篆文	居延漢簡 乙瑛碑 十七帖		集字聖教序 孫秋生造像	孔子廟堂碑	五経・序	稲荷山鉄剣
			七	七					
			七	七					
			七	七					
丁	チョウ テイ	口 ● 卩	丁	丁 丁 丁	丁 丁 丁	丁 丁 丁	丁 丁 丁	丁 丁 丁	丁
教3常①		甲骨 金文 包山楚簡	説文篆文	居延漢簡 禮器碑 孫過庭		智永 張猛龍碑	皇甫誕碑	九経・序	聖武天皇筆集
			丁	丁					
			丁	丁					
			丁	丁					
下	カ・グ おろる・おろ す・くださる・ くだす・きか る・さげるし た・しも・も と	下 下 下	下	下 下 下	下 下 下	下 下 下	下 下 下	下 下 下	下
教1常①		甲骨 𠂔 包山楚簡	泰山刻石	馬王堆 禮器碑 十七帖		集字聖教序 魏靈藏造像	九成宮	五経・序	法華義疏
			下	下					
			下	下					
			下	下					
三	サン みみつ みつつ	三 三 三	三	三 三 三	三 三 三	三 三 三	三 三 三	三 三 三	三
教1常①		甲骨 大孟鼎 睡虎地秦簡	説文篆文	居延漢簡 乙瑛碑 十七帖		集字聖教序 張猛龍碑	九成宮	五経・序	法華義疏
			三	三					
			三	三					
			三	三					
上	ショウ・ジョウ あがる・あげ る・うえ・う わ・かみ・の ぼす・のぼ る	上 上 上	上	上 上 上	上 上 上	上 上 上	上 上 上	上 上 上	上
教1常①		甲骨 金文 包山楚簡	説文篆文	馬王堆 乙瑛碑 十七帖		集字聖教序 始平公造像	九成宮	五経・序	法華義疏
			上	上					
			上	上					
			上	上					

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
一	一	一	一	一			一	一	一	一	一	一
屏風土台	節用	一〇										現代中国
		式										
式		古文										
七	七	七	七	七			七	七	七	七	七	七
益田本白詩	節用	一										現代中国
丁	丁	丁	丁	丁			丁	丁	丁	丁	丁	丁
藤原頼道	暦日	一										現代中国
下	下	下	下	下			下	下	下	下	下	下
三体白詩	節用	二										現代中国
		丁										
		古文										
		二										
		古文										
三	三	三	三	三			三	三	三	三	三	三
屏風土台	節用	二										現代中国
		式										
		古文										
上	上	上	上	上			上	上	上	上	上	上
屏風土台	節用	二										現代中国
		上										
		古文										
		二										
		古文										

【七】「十」と字体衝突した結果、縦線を曲げるようになる。  
当用漢字字体表では康熙字典や当用漢字表と同じように最終  
画を上にはねているが、教育漢字は止めている。

【一】<sup>2</sup>丈<sup>2</sup>与<sup>3</sup>丑<sup>3</sup>不<sup>4</sup>且

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
丈	ショウ たけ		古籀	馬王堆 石門銘			孔子廟堂碑	開成石経	粟原寺塔籠銘
丈	③		睡虎地秦簡	居延漢簡					光明皇后
万	マン ばん よろず	古籀	古籀	居延漢簡	羅布達爾漢簡	集字聖教序	張猛龍碑	雁塔聖教序	干祿字書
萬	マン ばん よろず	甲骨	史頌殷	郭店楚簡	説文篆文	銀雀山竹簡	曹全碑	智永千字文	集字聖教序
与	ヨ あたえる あずかる くみする		郭店楚簡	説文篆文	樊敏碑	十七帖	集字聖教序	鄭義下碑	江戸干祿
與	あたえる あずかる くみする	侯馬盟書	睡虎地秦簡	説文篆文	銀雀山竹簡	禮器碑	蘭亭序	元詮墓誌	孔子廟堂碑
与		楚系簡帛	中山王方壺	説文古文	居延漢簡				
丑	チュウ うし	甲骨	金文	包山楚簡	説文篆文	馬王堆	袁安碑	蘭亭序	元思墓誌
丑	④		侯馬盟書		居延漢簡				
不	フブ ず	甲骨	王孫遣者鐘	郭店楚簡	泰山刻石	馬王堆	武威漢簡	十七帖	集字聖教序
		甲骨	毛公鼎	包山楚簡	説文篆文	居延漢簡	禮器碑		
且	カツ しばらく まさに	甲骨	散氏盤	睡虎地秦簡	説文篆文	馬王堆	曹全碑	十七帖	元詮墓誌
			郭店楚簡	望山楚簡	説文古文				

【丈】「支」と字体衝突し、漢代に字体を変更する。「丈」の点は「咎なし点」で付けても付なくても良い。  
 【万】「万」と「萬」は別字だが古くから通用し、干祿字書も両方とも「正」とする。「萬」の居延漢簡の草書体が「万」に変化したとする説もあるが、「万」は居延漢簡の時代より

も前の戦国時代から使われており時代が合わない。もう一つ関連する文字に「卍」がある。この字も「マン」と読む。「マン字」が「マンジ」になったようだ。  
 【与】「與」とは別字だが通用する。多くの漢和字典では「一」の2画だが、康熙字典では「一」の3画で、字体も異なる。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
丈	丈	丈	丈	丈	丈		丈	丈	丈	丈		丈
元暦萬葉①	節用	一2			明治の漢字							明 張瑞図 現代中国
	丈				丈							
	丈				丈							
万	万	万	万	万	万			万	万	万		万
粘葉本朗読	女庭訓往来	一2			漢字要覧							現代中国
萬	萬	萬	萬	萬			萬	萬	萬			萬
元暦萬葉①	節用	卍9										現代中国
与	与	与	与	与	与					与		与
平等院鳳凰堂	節用	一3			漢字要覧							現代中国
與	與	與	與		與	與	與	與	與			與
平等院鳳凰堂	女大宇	白7			漢字要覧							現代中国
丑	丑	丑	丑	丑	丑		丑					丑
元暦萬葉①	五穀	一3			明治の漢字							現代中国
不	不	不	不	不			不	不	不	不		不
四戸本古今	節用	一3										現代中国
	不	不	不									
屏風土台	節用	古文										
且	且	且	且	且			且	且	且			且
元暦萬葉①	本願	一4										現代中国

最終画の横線が右に突き出るのは江戸以降か。拓本の干祿字書は不鮮明なので江戸期の版本をあげる。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
丘	キュウ おか								五経(説文) 王勃詩序
									五経(石経)
									江戸五経(石経)
世	セイ よ								開成石経 聶聶指歸
𠂔									聶聶指歸
𠂔	セイ よ								東大寺大仏殿
丙	ヘイ あきらか ひのえ								法隆寺金堂
丞	ジョウ リョウ								開成石経
両	リョウ								王勃詩序
									王勃詩序
並	ヘイ なみ ならびに ならぶ ならべる								法華義疏
竝									王勃詩序

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊ちやん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
丘												丘
												現代中国
世												世
												現代中国
𠂔												𠂔
												北宋・米芾
												北宋・米芾
丙												丙
												現代中国
丞												丞
												現代中国
両												両
												清・阮元
												現代中国
兩												兩
												陸軍(別体)
並												並
												干祿(通)
												現代中国
竝												竝
												一8

【丘】江戸時代の版本の五経文字では一画少ない。何かを避諱して欠画したのだろうか。ちなみに孔子の諱が「丘」。

【世】古くから「世」「𠂔」「𠂔」とその亜種がある。文部省活字は中央の縦線が下突き出ているが、これは説文篆文に倣ったのだろうか。開成石経の字体は唐太宗の諱・世民の

「世」を避諱して欠画したものでしょうか。漱石は「世」「𠂔」2種類の字体を使用。

【丙】行書や楷書では閉まれた空間では右ハライはしない。  
【両】「兩」は「入」の部首に分類されるのだが、手書きでは「人」を書く。「兩」は中国では清代、日本では江戸時代まで

みつけられない。太宰治が「兩」を書いている。  
【並】中国では古くから「並」と「竝」は両方とも使われている。日本では「並」の使用例が多いが、筆順が2種類ある。干祿字書が(通)としている字体が開成石経に使われている。康熙字典には「竝」と「並」があるが「並」はない。日本の

印刷例では「竝」より「並」の例が多い。

※当用漢字字体表の下の〇×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。

【1】中串【丶】丸丹主井【ノ】乃久

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文篆字 篆家	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
中	チュウ ジュウ なか あた うち	中	中	中	中	中	中	中	中
		中	中	中	中	中	中	中	中
串	カン セン くし なれる つらぬく								
丸	ガン まる まるい まるめる		丸	丸	丸	丸	丸	丸	丸
丹	タン	丹	丹	丹	丹	丹	丹	丹	丹
主	シュ ス おも ぬし	主	主	主	主	主	主	主	主
井	タン トン どんぶり どん	井	井	井	井	井	井	井	井
乃	ノ ダイ ナイ すなわち の	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃	乃
久	キュウ ク ひさしい	久	久	久	久	久	久	久	久

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
中	中	中	中	中			中	中	中	中		中
		中										
串	串	串	串				串					串
丸	丸	丸	丸	丸	丸		丸	丸	丸	丸	丸	丸
丹	丹	丹	丹				丹	丹	丹	丹		丹
主		主	主	主			主	主	主	主		主
井	井	井	井				井	井				井
乃	乃	乃	乃				乃					乃
久	久	久	久	久			久	久	久	久	久	久

【丸】点の位置に注意。『康熙字典』では「凡」に似た字を正字とし、通用字体を俗字としている。漱石は江戸版本と同じ字体を書いている。直井潔「国定教科書に於ける正字俗字一覽表」では「文部省に於いて特に正体を捨てて俗體を取りれたるもの」としている。

【丹】太宰は「丹」よりも「丹」に近い。説文篆文に従えば点のは横線になるはず。  
【井】「どんぶり」という意味で使うのは日本独自。中国では「井」と「井」は異体字でどちらも「井戸」のこと。上の表の中国での使用例は「井」の意味。「刑」の初文が「井」な

ので、それを区別するために「井戸の「井」」に点を加えたとか。「どんぶり」とは物が水に落ちる音という説もあり。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
之	シの これ ゆく 人①								
乎	コ 人①								
乍	ながら ①								
乏	ボウ とほしい 常①								
乗	ジョウ のせる のる 教3常①								
乙	オツ おつによ う きのと 常①								

【之】説文の字体に対応する明朝体の字体が康熙字典では古文になっている。隸書以降の字体は里耶秦簡の字体を元にしたものか。  
【乏】説文篆文の字体が左右反転しているようだ。五経文字には「乏」一例しか載っていないが、九経字様で説文篆文に

従った字体が追加されている。  
【乗】唐代の正字である開成石経(楷書)と清代の正字である康熙字典(明朝体)の字体が異なる。正(統)字体の根拠である説文篆文と較べればどちらもおかしい。夏目漱石は伝統的な楷書/行書の字体を書いているが、太宰治は康熙字典/文部

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
之	之	之	之	之			之					之
乎	乎	乎	乎	乎			乎					乎
乍	乍	乍	乍	乍			乍					乍
乏	乏	乏	乏	乏			乏					乏
乗	乗	乗	乗	乗			乗	乗	乗	乗	乗	乗
乙	乙	乙	乙	乙			乙	乙	乙	乙	乙	乙

省活字の字体の影響を受けているようだ。  
【乙】乙のようになったりLのようになったりする。開成石経(唐代の正字)では転折の後、あまり左に戻らず、「風」の2画目のような形。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期		
九	ク キウ このつ	𠄎	九	九	九	九	九	九	九		
九	教1常①	甲骨	包山楚簡	馬王堆	乙瑛碑	澄清堂帖	集字聖教序	楊大眼造像	孔子廟堂碑	干祿・後書	聖武天皇雜集
乞	キツ コイ こう			乞	乞	乞	乞	乞	乞	乞	乞
乞	新①			乞	乞	乞	乞	乞	乞	乞	乞
				乞	乞	乞	乞	乞	乞	乞	乞
也	ヤ ナリ ヤ	也	也	也	也	也	也	也	也	也	也
也	人①	金文	睡虎地秦簡	銀雀山竹簡	曹全碑	十七帖	集字聖教序	高貞碑	九成宮	五経・序	王勃詩序
			也	也	也	也	也	也	也	也	也
乱	ラン みだす みだれる おさめる みだれ	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎
乱	教6常①	金文	睡虎地秦簡	馬王堆	曹全碑	王獻之	争乱帖	鄭義下碑	九成宮	干祿字書	王勃詩序
亂	ラン おさめる みだす みだれる わたる			亂	亂	亂	亂	亂	亂	亂	亂
亂	②			亂	亂	亂	亂	亂	亂	亂	亂
				亂	亂	亂	亂	亂	亂	亂	亂
乳	ニウ ウチ	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎
乳	教6常①	甲骨	古璽	説文篆文	武威医簡						王勃詩序
乾	カン かわかす かわくい			乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾
乾	常①			乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾
				乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾	乾
了	リョウ おえる おわる ざとる			了	了	了	了	了	了	了	了
了	常①			了	了	了	了	了	了	了	了
予	ヨ あづかる あづける あたえる あらかじめ わら	予	予	予	予	予	予	予	予	予	予
予	教3常①	甲骨	説文篆文	馬王堆	居延漢簡						
				予	予	予	予	予	予	予	予
				予	予	予	予	予	予	予	予

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
九	九	九	九	九			九	九		九	九	九
九	元暦萬葉①	節用	乙1									九 現代中国
乞	乞	乞	乞				乞					乞
乞	元暦萬葉②	節用	乙2									乞 干祿〈俗〉 現代中国
乞	元暦萬葉③	庭訓往来										
也	也	也	也	也			也					也
也	元暦萬葉①	節用	乙2									也 現代中国
			也									
乱	乱	乱	乱	乱	乱	乱	乱	乱	乱	乱	乱	乱
乱	元暦萬葉②	節用	乙6〈俗〉									乱 江戸干祿〈俗〉 現代中国
亂	亂	亂	亂									亂
亂	元暦萬葉②	節用	乙12									亂 干祿〈俗〉
乳	乳	乳	乳	乳	乳		乳	乳	乳	乳	乳	乳
乳	元暦萬葉①	節用	乙7									乳 現代中国
乾	乾	乾	乾	乾	乾		乾	乾	乾	乾	乾	乾
乾	元暦萬葉①	節用	乙10									乾 干祿〈俗〉 現代中国
了	了	了	了	了	了		了	了	了	了	了	了
了	関戸本朗詠	節用	了1									了 現代中国
予	予	予	予	予			予	予	予	予	予	予
予	藤原定家	宝抓取	了3									予 現代中国

【乞】「气」と同字とする字書と別字とする字書があるが、本書では別字とした。  
 【也】説文に2種があり、康熙字典では片方が古文。ならば睡虎地秦簡の字体も古文ということになる。  
 【亂(乱)】「乱」は干祿字書と康熙字典に「亂」の俗字として掲

載。私見では「乱」は「亂」の略字で、「亂」の「ム」の部分が「乱」の口だと思う。日本では上代以降「亂」と「乱」の両方が使われるが、江戸時代になると「乱」が多く使われ、繁体の「亂」の使用例がみつからない。文部省活字は「亂」。文部省活字の影響を受けていると思われる太宰治も「乱」を

書き、「亂」は書いていない。  
 【乾】現代中国ではこの字をqianと読むときは「乾」を使い、ganと読むときは「干」を使う。  
 【予】別字だが「豫」と通じる。太宰治は「豫感」と書いている。九経字様の字体は楷書とは思えないが、これが正字。開

成石経の「豫」は最後の2画を省いている。これは唐の代宗の諱を避諱して欠画しているのだろう。現代中国では「予」と「豫」を統合していない。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆文	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期				
豫	ヨ あらかじめ		𠄎	豫	豫	豫	豫	豫	豫				
②			包山楚簡	説文篆文	馬王堆	曹全碑	孫過庭千字文	歐陽詢千字文	鄭義下碑	智永千字文	開成石經	聖武天皇雜集	
			𠄎	𠄎									
			説文古文	敦煌漢簡									
争	ソウ あらしう いかでか		𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	
教3常①			睡虎地秦簡	説文篆文	銀雀山竹簡	石門頌	居延漢簡	歐陽詢史帖	元彦墓誌	孟法師碑	干祿字書	珣玉集	
争	ソウ あらしう いかでか			𠄎	𠄎	𠄎						𠄎	
人②				𠄎	𠄎	𠄎						龔賢指歸	
事	シズ こと つかえる	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	
教3常①		甲骨	大孟鼎	郭店楚簡	説文篆文	馬王堆	曹全碑	十七帖	興福寺斷碑	龔龍頌碑	孔子廟堂碑	五経・序	王勃詩序
事				𠄎	𠄎								
				説文古文	居延漢簡								
二	ニ ふた ふたつ	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	二	
教1常①		甲骨	大孟鼎	包山楚簡	説文篆文	居延漢簡	曹全碑	書譜	興福寺斷碑	魏靈藏造像	孔子廟堂碑	九経字樣	王勃詩序
				𠄎									
				説文古文									
井	ショウ セイ い	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	井	
常①		甲骨	大孟鼎	大孟鼎	説文篆文	居延漢簡	居延漢簡		皇甫驎墓誌	九成宮	開成石經	王勃詩序	
云	ウン い			云	云	云	云	云	云	云	云	云	
人①				睡虎地秦簡	馬王堆	居延漢簡	十七帖	蘭亭序	論経書詩	孔子廟堂碑	開成石經	王勃詩序	
					云	云							
					居延漢簡	張遷碑			楊大眼造像	九成宮			
雲	ウン くも	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	
学2常①		甲骨		古璽	説文篆文	居延漢簡	西狭頌	十七帖	集字聖教序	始平公造像	孔子廟堂碑	開成石經	王勃詩序
				𠄎	𠄎	𠄎							
				古璽	説文古文	武威漢簡	曹全碑		論経書詩	九成宮			
				𠄎									
				説文古文									

【争】「争」が正(統)字体とされているが、行書や楷書では「争」「争」両方が書かれている。横線が右に出るものと出ないものがある。漱石も太宰も横線を右に出していない。睡虎地秦簡の上部も「日」のようだが、傾いているから「爪」なのだろう。漢代には上部を完全に「日」に作る字体がある。

書譜の字体も「日」をくずしているように見える。  
【事】「事」と「事」の差は「口」が点々に略されるだけで大きな問題ではない。下から2本目の横線が漢代までは右に出ているが、南北朝以降は出なくなる。九経字樣、康熙字典など正字では出る。弘道軒も漱石も太宰も出していない。漱石は

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
豫	豫	豫	豫		豫		豫		豫			豫	
元暦萬葉①	駿台雜話	家9			教科書							現代中国	
		𠄎											
		𠄎											
𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	
近衛本朗談	節用	爪4			明治の漢字							干祿(通)	現代中国
𠄎		𠄎											
元暦萬葉②													
𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	
元暦萬葉②	庭訓往来	17			明治の漢字							現代中国	
		𠄎											
		𠄎											
𠄎	𠄎	𠄎	𠄎	𠄎								𠄎	
元暦萬葉⑥	節用	二0										現代中国	
井	井	井	井	井			井	井	井	井	井	井	
元暦萬葉②	節用	二2										敬史君碑	現代中国
云	云	云	云	云			云				云	云	
元暦萬葉①	本願念仏利益章	二2										節用の「言」	現代中国
云													
元暦萬葉①													
雲	雲	雲	雲	雲			雲	雲	雲	雲	雲	雲	
元暦萬葉1	節用	雨4										現代中国	

ほとんど草書を書くが、まれに楷書・行書の字体を書く。  
【于】説文篆文と泰山刻石の字体が異なるが、もちろん泰山刻石が正しいのだろう。  
【井】説文篆文には点があるが、なぜか開成石経にはない。「刑」の初文が「井」なので字体の衝突を避けるために「井

戸」の「井」の方に点をつけて「井」にしたともいう。  
【云】「雲」の元の字で、後に「雨」を加えたという。

※当用漢字字体表の下の○×は、複数の字体がある字種のうち昭和24年当時、岩田母型製造所での母型の有無を示す。